

常念岳&蝶ヶ岳山行報告



【山行日】2017年5月3~5日(水~金)

【集合】岩舟支所P AM 4:00

【費用】マイカー1台 : 30,000円

【メンバー】CL:鈴木 大久保、香川、関、鶴見、藤原

3日: 快晴、一ノ沢登山口から一ノ沢沿いに歩き、笠原沢出合から雪渓を詰め常念小屋へ

岩舟支所 P4:00=南安タクシー=7:00=一ノ沢登山口

8:00~王滝ベンチ 9:20~烏帽子沢出合 10:30/10:40

~笠原沢出合 11:00/11:10~常念小屋 12:50

15年前の感動を是非皆さんに体験してもらいたい
と思い、常念岳から蝶ヶ岳への縦走を計画した。

山溪5月号に『残雪アルプスコースガイド』が特集され、常念岳から蝶ヶ岳の頂上稜線は、全体に広い尾根上を歩くため危険箇所は少なく、残雪期の縦走入門コースとしておすすめと紹介されている。

今回の山行に備えて、アイゼン歩行やロングトレイルのトレーニングを何回も行って臨んだ。

南安タクシーに車を預け、タクシーで一ノ沢登山口に向かう。登山口に到着、トイレを済ませ、登山計画書を監視員の方に渡し登山開始する。一ノ沢の沢筋に沿って進み、途中山の神で安全登山を祈願する。この少し先から残雪の登山道歩きになり、王滝ベンチは雪に埋もれて確認できなかった。

樹林帯の中雪道を登り、途中から沢の中を歩くようになり雪崩で茶色くなった雪の台地に着く。ここが烏帽子沢出合で、大勢の登山者が休憩しアイゼンを付けていた。我々も休憩を取り、果物を食べ水分を補給する。雪の傾斜が急になってきたが、アイゼンを付けず笠原沢出合まで登って行く。ここから左

の雪に埋もれた支沢詰めて登るので、アイゼンを付けて2班に分ける。健脚組が先行し、5分後にのんびり組が登り始めた。トレースははっきりしているが、女性達には歩幅が合わず登るのが大変そうだ。Sさんは「自分の歩幅で歩く」とトレースの脇を、自分の歩幅で登って行く。ゆっくりと一歩一歩登って行くが、途中休憩して後ろを振り返り「ウウ~~こんなに急なんだ、怖いね」と驚いていた。ようやく常念乗



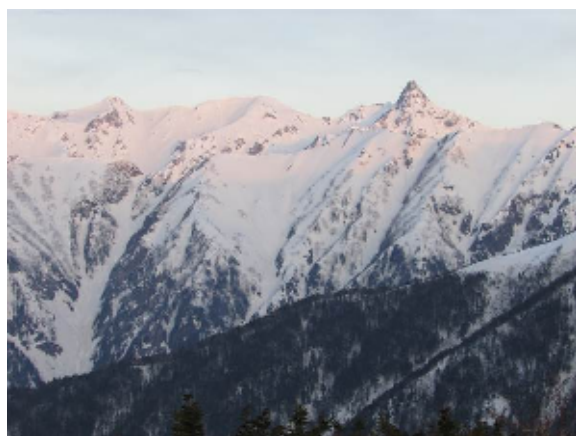
越へ登り上がると、先行した皆さんに出迎えられ固い握手する。乗越に出ると、正面に雪をいただく槍ヶ岳とそれに連なる北アルプスの峰々の美しくも壮大な展望が広がっていた。早速記念写真を撮り、今宵の宿常念小屋へ入り受付を済ませる。7名部屋へ案内され、各々が自分の場所を確保し荷物を整理したら昼食を食べに食堂へ行く。カレーライスやラーメン、うどんなど各自好きなものをオーダーし遅い昼食をいただく。食堂からも槍ヶ岳から北穂高岳の絶景が望め、景色を見ながら食べるランチは格別美味しかった。昼食が済んだら表に出て、景色を楽しみながら写真を撮り合う。風も無く温かい天

気に恵まれ、外に居ても全然寒くない。部屋に戻り、4時から談話室で宴会が始まる。ワインを飲みながら、つらい登りも素晴らしい景色で忘れたことや、明日の常念岳から蝶ヶ岳へ縦走の話、夏山山行の

話で盛り上がる。夕食は美味しいハンバーグをいただき、明日に備え早めに床に就いた。

**4日 快晴、常念乗越から常念岳に登り、槍ヶ岳～穂高岳の絶景を堪能しながら蝶ヶ岳ヒュッテへ
常念小屋 7:00～常念岳 8:30/9:00～2592mピーク 11:40/12:10～蝶槍 13:40/14:00～蝶ヶ岳ヒュッテ
14:50**

残雪の常念岳に登るのは初めてだ。常念乗越に雪はないものの周りの景色が違う。



3時に目が覚め、一人で外に出て星空を撮った。星が降りそうなほどではなかったがキレイな空だった。そして、松本市が輝いてとてもキレイだった。しかし朝日はいまひとつで日の出という感じがしない。けど、朝日を見るために集まる人々のシルエットが美しかった。朝食を食べ、準備を整えたら常念岳に向かって出発する。常念岳は山頂の取りつき(三股への分岐)から雪が出てくる。女性陣は少し不安なようだったが、雪の状態を見てツボ足で登ることにした。一步一步丁寧に登れば問題はないし、雪＝アイゼンではない。山頂からの眺望は文句なし。頂上からは迫力の大パノラマが

望め、槍ヶ岳から穂高岳への稜線はもちろん、薬師岳・乗鞍岳・鹿島槍など北アルプスの名峰が連なっている。遠くには八ヶ岳、中央アルプス、南アルプスから富士山までも見渡せる。山頂で眺望を楽しんだら常念から蝶へ向かう。下り始めの岩と雪ミックスのところだけアイゼンを装着。鞍部まで下りたらアイゼンを外してツボ足で進んだ。鞍部からは広い尾根のアップダウンが続く。西側を眺めれば、槍ヶ岳は後方に遠のき、代わりに穂高の山々が間近に迫ってくる。樹林帯に入ると雪が出てきたが、何度もアイゼンを着脱する他の登山者を横目に私たちはアイゼンを付けずリズム良く歩いて行く。予定より少し時間が掛かり、2592mピークで昼食を食べることにする。



絶景を見ながらラーメンとパンを食べ、至福のひと時。

ここから2班に分けて蝶槍に向かった。健脚組の二人は先行し、蝶槍で美味しいコーヒーを淹れて待っている約束。のんびり組は尻セードで斜面を下り、T見さんは童心に帰って大はしゃぎしていた。



蝶槍で絶景を見ながら美味しいコーヒーをいただき、記念写真を撮って蝶ヶ岳ヒュッテに向かう。

蝶槍からヒュッテまでは私だけ先行させてもらった。理由は蝶槍で出会った若い男性が高度障害などの影響でフラフラと歩いているのが先に見えたからだ。彼に私の持っている水とゼリー飲料を全て渡し、ヒュッテまで一緒に歩くことに。岐阜から来たというその男性は「今まで飲んだ水の中で最高に美味しい！」と言っていた。明日は我が身。放ってはおけなかったし、ヒュッテに着けて良かった。

蝶ヶ岳ヒュッテでは槍穂高連峰を酒の肴に外で宴会。2年前に初めて見た景色だが、やはり、私はこ

こから見る景色が最高に好きだと思った。大キレットに夕日が沈むまで一人で満喫させてもらった。

この日の蝶ヶ岳ヒュッテは満員御礼！布団1枚に3人という指定だったため、追加料金を払い個室を借りた。一人1枚の布団で寝るのはやはり快適であった。

5日 晴れ 蝶ヶ岳ヒュッテから蝶ヶ岳山頂で写真を撮り、まめうち平から三股へ下山

蝶ヶ岳ヒュッテ 6:45～蝶ヶ岳山頂 6:50/7:05～まめうち平 9:00/9:10 三股ゲート 10:40/10:50＝

南安タクシー11:30＝ビレッジ安曇野 12:00/12:50＝姥捨 AS13:30/14:00＝岩舟支所 P17:30



感動的な蝶ヶ岳ヒュッテからの日の出ショーを見てから朝食をとり、準備体操をして蝶ヶ岳山頂に向かう。時間を忘れるくらい見ていたい程の360度の大パノラマ。雪の槍ヶ岳から穂高岳、乗鞍岳や八ヶ岳、日本一の富士山までもが見える。蝶ヶ岳山頂で記念撮影を済ませ、まめうち平を目指し出発する。キャンプ場脇を通り、急な下りの前でリーダーの声かけでアイゼンを装着する。いきなり雪の急斜面を下るが、リーダーより「前の人の足跡があるので、その上を歩くと楽だよ」と説明を受けるも歩幅が合わず新人二人にとっては一苦労。

リーダーについていこうとするも、滑ったりズボズボと雪に足をとられながらの下山となる。

途中、傾斜が緩くなった樹林帯で、衣類調整や水分補給を行う。トラバースの歩行は、谷側に落ちないように慎重に下る。やっとまめうち平に着き、休憩を取りアイゼンを外した。リンゴやチョコレートをいただき、エネルギーを補給する。

アイゼンを外したが、まだ雪の斜面があり滑らないよう気を遣う。登山道に雪が無くなると、雪解け後に咲くショウジョウバカマやキクザキイチゲ、ハシリドコロ等の花が可憐で力強く咲いている。花々のスナップを撮る余裕が出て、花を楽しみながら下れた。ゴジラの木の前で休憩し、コーヒーゼリーを食べ水分を補給する。

ゴジラの木をバックに記念写真を撮り三股に向かう。沢に掛かる橋を渡り、常念岳への分岐を過ぎると



登山指導所がある三股に着いた。そこから10分程林道を歩くとゲートがあり、予約したタクシーが待っていた。トイレを済ませタクシーに乗り、南安タクシー営業所までむかう。営業所に到着し、靴を履き替えてから車を乗り換え、ビレッジ安曇野で入浴し帰路につく。

昼食はお寿司屋さんへ行く予定でしたが、安曇野の町は車が渋滞しているので、高速に乗り姨捨SAで昼食にした。途中、事故渋滞にはまり、1時間程時間をロスしたが無事に岩舟支所に到着した。

初めての雪山縦走は、槍・穂高の大パノラマが思っていた以上に素晴らしく、一生忘れない思い出になりました。



た。